

(様式1)

令和7年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第二寺島小学校
校長名	冨永 央星

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・34観点中、全国平均正答率より上回ったものが31観点であり、全体の91.1%であった。全体として向上している。(昨年度62.7%) ・第5学年は全ての観点においても全国平均を大きく上回ることができた。(平均9ポイント) ・第6学年においては、全国平均を上回った観点が10観点中7観点と昨年(12観点中3観点)からの健闘が目立った。	・全国平均正答率を下回ったものが3観点であり、目標値より低かったものが4観点あった。いずれも第6学年であった。 ・昨年度からの経年変化では、第3学年の算数と第4学年の国語が下がってきている。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・学習意欲について、全国値と比べて、第2学年が1ポイント、第3学年が2ポイント下回っているが、第4、6学年は同等、第5学年は2ポイント上回る結果となった。	・学習習慣については、第3、4、6学年が全国値と比較したスコアで下回る結果となった。家庭での学習についても充実できるよう各家庭と連携しながら改善を図る必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・タブレット端末を用いて、ロイロノートやミライシードを授業中や家庭学習で効果的に活用することができた。 ・放課後補習教室「二寺小屋」を継続的に取り組んでいる成果が表れているところが見られる。	・タブレット端末を工夫して活用し、様々な教科において学習内容の定着を図れるよう検討していく。 ・学習内容をより定着させるために、他の教科における放課後補習教室の実施についても検討が必要である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 知識と技能、思考力・判断力・表現力等のバランス

知識については、低学年・中学年の段階において、読み・書き・計算などの基礎的・基本的なことを確

実に習得させるために、ふりかえりシートや東京ベーシックドリル等を用いた学習段階ごとのプリント学習による定着学習で「つまずき」の早期把握をする。低学年においては、多層指導モデル(MIM)を取り入れながら言語能力の把握と向上を図っていく。また反復学習(漢字・計算・用語など)を重視した指導を徹底する。またNHK for schoolなども活用し、教科書を読んだ後に、視聴し、また教科書に戻る。などの立体的な読み方で定着させる。

技能について、算数では、授業で使用するコンパス・分度器・三角定規等の学習用具の適正な使い方を身に付けさせていく。理科では、観察・実験を重視し、操作の習得が必要となる器具については、タブレット端末を含めICTも活用して個々の児童に正しい操作技能を身に付けさせていく。

思考力・判断力・表現力については、「仮説(予想・理由)を設定する場面」や「観察・実験・調査の結果を考察する場面」を意図的・計画的に設定するなどの指導の充実を図る。また、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成のために、低学年・中学年の国語において音読・暗唱・漢字の読み書きなど言語指導を充実させる。

算数においては習熟度別学習指導の充実を通して、理科においては理科担当教員を中心とした学習指導の充実を通して、知識・技能・思考力・判断力・表現力を育成していく。

そして、身に付いた確かな知識と技能を積極的に活用し、小学校低学年・中学年・高学年の思考力・判断力・表現力等を確実に育み、児童一人一人に主体的に学習に取り組む態度と確かな学力を身に付けさせていくことで、主体的・対話的で深い学びをつくりあげていく。

(2) 1 単位時間の流れ、アウトプットを大切にする。

毎日の授業において、1 単位時間を 40 分で行うぐらいのイメージで授業を構成する。授業の後半で、まとめることはもちろんだが、その後に適応問題を 1 問でも解いて、身に付けさせていく。

また、翌日に授業の時間もしくは、朝の時間などの帯の時間を使って、前日の授業の振り返りの問題に取り組ませることで着実な学習の定着をねらっていく。その際には、あまり手を広げず、すみだ教育研究所の推奨するシートやコンテンツに絞って実践していく。

(3) 家庭との連携を図った学習環境の確立

児童一人一人の学習状況調査結果に基づき、個人面談・保護者会等の機会の活用を図り、学校・家庭の相互理解を通してよりよい学習習慣を確立する。基礎的・基本的な学習習慣の確立ができていない児童が散見されるので、学級担任・学年主任等を中心に、あらゆる機会を生かして指導助言を重ねていき、家庭学習の習慣化・継続化を推進していく。管理職からは、全体保護者会・学校便り等を通して適正な家庭学習の確立について啓発していく。

3 「令和 8 年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全国平均正答率に対して、34 観点中 28 観点以上(全体の 80%以上)が上回るようにする。
- ・目標値に対しては、34 観点中、30 観点以上が上回るようにする。
- ・経年比較で全学年がプラス成長となるようにし、正答率を全体的に向上させる。
- ・DE 層の児童の割合が平均 18%以下になるようにする。